

## 「草の週間」にあたって

岡山県農林部長 荒木 栄 悦

9月4日から1週間「草の週間」ということで県が主催でいろいろと行事をすすめて行くことになりましたが、この機会に草について皆さんに少し申し上げてみたいと思います。

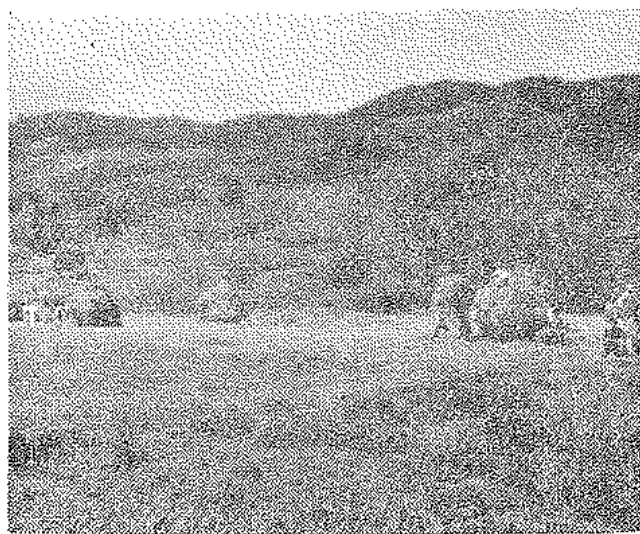
「草の週間」というと、いまさら草でもあるまいということになると思いますが、ここで草というのは、皆さん御承知のように家畜に食わせる牧草のことです。

日本には昔から草はたくさんありました。そしてもちろん家畜はそれを食べていますが、要するに栄養価のある草というのは少ない、いわば質の悪い雑草類はたくさんあるということになると思うのです。

私どもは、最近“草”のことをさかんに云いますけれども、結局これは畜産振興ということとうらはらの問題でありまして、いい草がたくさんできれば、従ってコストの安い畜産ができるということになるのであります。

つぎに畜産の状況を眺めてみますと、最近の日本経済の成長率が非常に高い一年率9%、あるいは11%などといわれている一、またそのなかで農業は非常に低いといわれています。しかし畜産だけをつかまえると11%以上、あるいは岡山県の酪農は23~5%以上と高度の成長を続けています。ところがその原動力となるのはやはり飼料の問題ということになるわけでありまして、どうしても立派な草を作るということできなくてはいけないと思います。そこでこの4日から「草の週間」ということにしておりますが、これを機に秋播きのイタリアンとか、その他の牧草のタネをまず皆さんに播いてもらうということになるわけでありまして。

それで将来どの位な草を播いてもらう予定にしているかと申しますと、いま岡山県では畜産振興策として昭和45年を目標に、乳牛だとか、和牛を増やす計画をいたしております。たとえば乳牛の146,000頭、和牛を250,000頭、豚を250,000頭、鶏を8,000,000羽に増やそうというわけです。その場合、草地をどのくらい予定するかといえますと100,000



ヘクタール—うち牧野造成改良約26,000ヘクタール、既耕地延75,000ヘクタール—でありまして、これはたいへんな草地であります。それは、もちろん山の方も開いて草地にいたしますけれども、現在の耕地の裏作に、あるいは輪換作としての飼料作物の栽培も考えております。

今年のところは、そういう意味あいでも、県が奨励して集約牧野その他いろいろ牧野の造成をやるわけですが、大規模草地その他合わせて約600ヘクタールを集約牧野として草地改良を行います。さらに和牛のための改良牧野を200ヘクタール予定しております。この関係予算が70,000,000円以上あるわけですが、こういうふうに、行政的に大いに進めたいという考えでいるわけです。

草につきましては、結局畜産をやっている方はもちろんのことですが、畜産をやっていない方でも、草を作ればそれが金になるんだという、いわゆる牧草の商品化ということが行われないと、やはり草作りというものが本格的にならないのではないかと考えております。ところが、今年すでに県南部の方から乾草を買いたいという人が県の方へ申込んできておりまして、これが30トン位あるといわれております。また来年は岡山県で国民体育大会があり、それに馬の競技が入るわけですが、100頭位の馬を、国体の期間中飼う、その牧草も用意しなければならない

## 岡山畜産便り 1961.09

ことになっています。そういうようなことから、やはり草というものを相当作っていただいて、それを買う、あるいは売れる、ということにこれからだんだんなっていくんじゃないかと思っております。

要するに“草”については、日本では今頃さかんに云われるようになりましてけれども、外国へ行ってみますと、もうほとんどの土地が草地で、たとえば、このあいだ知事の話にもありましたし、私も現に見たんですが、オランダなどでは牧草地が全面的にあって、牧草地でないところは温室だというふうな形の農業がやられており、その他の国でも大部分畑地は草ということになっております。

日本でもひとつ、さきほど述べましたように、耕地のほとんどが優良な牧草で覆われることを切望いたしまして、この週間の挨拶といたします。

< 9月4日 NHKラジオ放送より >